



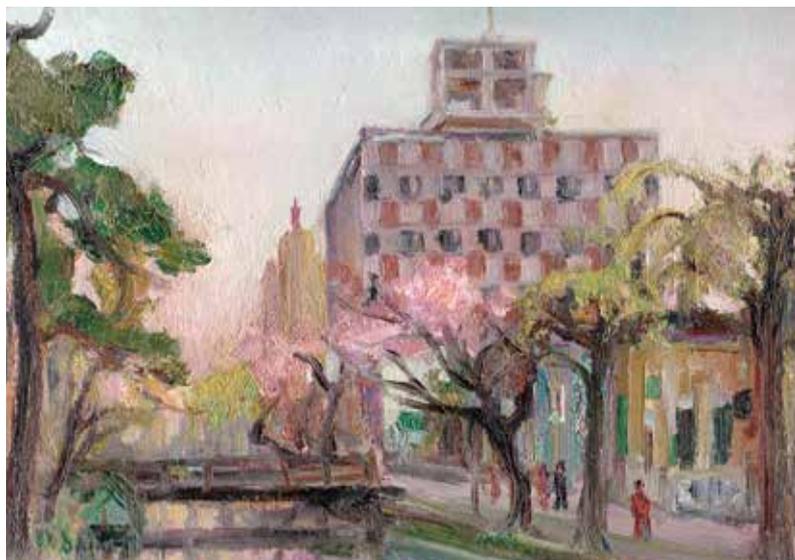
「街の花売り」

新潟の肖像 1955-70 斎藤應志展

2022
6 | 2 (木)
7 | 3 (日)

9:00-21:00
月曜休館・観覧無料
主催：砂丘館

砂丘館



「焼け土蔵」「市役所に見える西堀」



斎藤應志の新潟

大倉宏

上左から「氷雪の港」(1961年)、「雪ばれの教会」、「紅い雲」、下左から「夕の榎谷小路」、「万代橋の見える河岸」

斎藤應志は明治生まれの人で、新潟師範学校で学び、生涯新潟市で具象的な油絵を描き続け1981年に亡くなった。教師をしながらの時期、絵に専念するためやめた時期、退職後の時期などがあつたらしい。東京の展覧会(白日会展)にも一時出品したようだが、その出品歴はよくわかっていない。発表は生涯を通じほとんどは新潟で、と言ってもよかつたようで、それも彼自身も創設にかかわった戦前の県展(民営の油彩画公募展)と、戦後の主にデパートなどでの個展の時代に分かれるようだ。いくつもの意味で「新潟市の画家」と言える人である。

その呼称がさらにぴったりと来るのは、昭和30年(1955年)と言えば9月の新潟大火で町の中心部が大きく焼けてしまった年だが、この年からスケッチ板という絵画用の、それもサムホールサイズ(15.8×22.7cm)の板に、おそらく現地で描いたと思われる油彩画を数多く残し、その大半が新潟市(特に中央区の現在「新潟島」と呼ばれる地区)の風景であることだ。そのすべて(と思われる)絵を画家自身がナンバリングし、タイトル、制作年ほかとともに一冊のノートに書き残していることから、描いた場所までがほぼ特定できる。ナンバーの最後が833。個展などを通してだろう、かなり人手にも渡つたようで、現在仕事場があつた家には450枚近くが残されている。その最後は亡くなる10年前の1970年頃の絵で、昭和で言えば30年代から40年代半ばまでの新潟市を、まるで時間眼鏡で覗き見るような感覚を覚えさせる作品群になっている。そのほぼ全部を今回砂丘館ギャラリー(蔵)で展示する。

会期中の6月11日、12日には新潟市で「第45回全国町並みゼミ新潟市大会」が新潟市で開かれる。歴史的な町並みの保存運動や、それを生かしたまちづくりの関係者が全国から集まる催しであり、それに合わせて、というのが当初の本展の発想だったのだけれど、改めて通覧して気づいたことは、当時まだ新潟市に数多く残されていたはずの「町屋」が斎藤の絵にはほとんど描かれていないことだった。高台の洋風建築だった元市営住宅に居を構えた油絵画家・斎藤應志の絵心を刺激した新潟は、昭和初期の建築であるカトリック教会や洋館やビルの街であり、西堀通りや大火後に再開された地区、それからまだ船の姿が多く見られた川岸や港、工場や郊外の公園、そして砂丘の海岸と夕陽の沈む海などで、彼が油

絵という鏡に写すに相応しいと感じた新潟の町がどのようなものであつたかを、それらは伝えている。大火で(おそらく)焼けた蔵の絵が何点もあるのを除けば近世の名残を残す新潟は描かれていない。

どういふことかと言えば、それらは斎藤の目に、おそらくあまりにありふれていて、「図」として浮かびあがってはこない町の「地」の風景だったということなのだろう。大きな戦災を受けなかつた新潟に昔の町並みが戦後もそっくり残っていたがゆえの現象とも考えられる。画家の感覚は、同時代の多くの新潟に暮らしていた人々の感覚とも共通のものだったのかもしれない。

画家が亡くなって二年後に新潟に転居してきた私は、その約十年後、その「地の風景」がまだ町におどろくほどの量で残っていることに気付き、しきりに写真を撮ったりしはじめたが、そういう間にもそれらは次々と壊されてゆき、4半世紀後の現在、町屋も蔵も、絶滅危惧種のような珍しいものになろうとしている。これほどの「新潟の肖像」を集中して残した画家の心には、変わりゆく町の今を絵に記録するという意識もあつたらしいことを思うと、そんな私の経験を、時間をさかのぼって伝えにいきたくなる。

(砂丘館館長)

斎藤應志(さいとう おうし)

1903年中条町(現胎内市)生まれ。24年新潟師範学校卒業。戦前の民間主催の洋画公募展「新潟県展」(旧県展)の企画・運営に参画し、自らも同展に出品した。旧県展第1回で3点の作品が入選し、「選外特選」の「船」は市長賞を受賞。第4回で特選。白日会(大正13年創立)へ出品していた時代がある。戦後は中学校美術教師をしながら、新潟の風景や静物画を描き、数多くの個展を開催した。81年没。2019年新潟絵屋で弟との二人展「斎藤應志・鉄臣展」を、2020、21年個展開演。

第45回全国町並みゼミ新潟市大会

市民の活動でつなげる歴史まちづくり～みなとまち新潟から考える～

6月11日(土)・12日(日)の二日間、歴史を生かしたまちづくり関係者が全国から新潟市に集まります。砂丘館も参加する「西大畑旭町文化施設協議会(異人池の会)」も協力しています。一般参加も可能。



【同時期開催】キャンパスに描かれた小品を展示。

斎藤應志展 6/2[木]-13[月]11:00-18:00(最終日17:00)

会場:新潟絵屋(観覧無料/会期中無休)

新潟市中央区上大川前通10-1864 tel.025-222-6888 <http://niigata-eya.jp/>

(私たちは砂丘館の自主事業を応援しています)

新潟ありれ 株式会社

NSGグループ

ISHIKAWA

新潟ビルサービス

丸屋本店

藤田金属

WIND

郷土の文化に親しむ会



砂丘館

旧日本銀行新潟支店長民宅

指定管理者:新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体

会場

砂丘館ギャラリー(蔵)

新潟市中央区西大畑町5218-1

tel.025-222-2676

<https://www.sakyukan.jp>

新潟駅万代口より浜浦町線C2系統 又は
観光循環バス「西大畑坂上」下車徒歩1分

※砂丘館には駐車場がありません。
また、周辺の道路は駐車禁止です。
公共交通機関をご利用ください。

※新潟市西堀地下駐車場をご利用の方は
駐車券提示にて1時間分の無料券を差上げます。